



## “イ長調の世界” — イ長調の名曲を探る



### プログラム

“調性”を特集する長調のシリーズ、第2回目の今日はイ長調で書かれた名曲をお送りします。モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番の通称は第3楽章にトルコ行進曲風のリズムを用いている事に由来していますが、音楽的にも洗練された深みを持った青年期を代表する傑作です。ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第9番はヴァイオリニストのルドルフ・クロイツェルに捧げられたため、その名が付けられています。自身が“協奏曲風に合奏されるピアノとヴァイオリンのためのソナタ”と注記しているように、ヴァイオリンとピアノが対等である事が劇的緊張感と大きなスケール感を生んでいます。第2楽章の叙情的な美しさとの対比も見事で、古今のヴァイオリン・ソナタの最高傑作のひとつ。チャイコフスキーのイタリア奇想曲は1879年にイタリアを訪れた時の印象を音で描いた作品で、華麗で活気に溢れた名曲です。ショパンの前奏曲の第7番はCMでもおなじみの作品。シューベルトのピアノ五重奏曲は第4楽章に歌曲「ます」による変奏曲を持つ事からその名で親しまれている名曲で、抒情的な歌謡性を持った旋律、リズムカルで色彩豊かな曲想は若々しく新鮮です。メンデルスゾーンの交響曲第4番は1830年～31年のイタリア滞在中の印象を基に書かれ、明るく明快、第4楽章はイタリアの舞曲サルタレロとして知られている傑作です。今回は、イ長調の名曲をたっぷりお聴きください。

\*\*\*\*\*

**ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756~1791):**

**ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調K.219“トルコ風” ~ 第1楽章、第3楽章**

アンネ・ゾフィー・ムター (ヴァイオリン)

ヴォルフガング・ゲンネンヴァイン指揮ルートヴィヒスブルク音楽祭管弦楽団

(1989.8.7 ルートヴィヒスブルク音楽祭でのLive)

**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):**

**ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調op.47“クロイツェル”**

~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章

イツァーク・パールマン (ヴァイオリン) / ウラディーミル・アシクケナージ (ピアノ)

(1980.6.14 神奈川県民ホールでのLive)

**ピョートル・チャイコフスキー (1841~1893):**

**イタリア奇想曲イ長調op.45**

ウラディミール・フェドセーエフ指揮モスクワ放送交響楽団

(1986.5.11 NHKホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**フレデリック・ショパン (1810~1849):**

**24の前奏曲op.28 ~ 第7番イ長調**

モーラ・リンパニー (ピアノ)

(1992.4.3 サントリーホールでのLive)

**フランツ・シューベルト (1797~1828):**

**ピアノ五重奏曲イ長調D.667“ます” ~ 第1楽章から、第4楽章、第5楽章**

エミール・ギレリス(ピアノ) / アマデウス弦楽四重奏団員 / ライナー・ツェペリッツ(コントラバス)

(1975.9.2 ヘルシンキ、フィンランドディアホールでのLive)

**フェリックス・メンデルスゾーン (1809~1847):**

**交響曲第4番イ長調“イタリア”op.90 ~ 第1楽章、第3楽章から、第4楽章**

クリストフ・エツシエンバッハ指揮北ドイツ放送交響楽団

(2009.5.3 ハンブルク、ライスハレでのLive)